

「大曽根駅西再開発」から1年

名古屋市北区大曽根の商店街が、総事業費 430 億円をつぎ込んだ 40 年越しの土地区画整理事業で生まれ変わってから 1 年経つ。12 月 15 日付中日新聞の「整備裏目 人通り遮る」という記事が再開発 1 年後を伝えている。

大曽根は名古屋北東の玄関口として栄え、約 600 軒のアーケード商店街は大須や円頓寺と並び称された。大規模な市の区画整理によりアーケード

が撤去され、西半分が 1989 年に「オズモール」として再生し、東半分はおくれて 2006 年 7 月に「オゾンアベニュー」として再開発、12 月には地下街「オズガーデン」がオープンした。

こうして 40 年越しのハード整備は完了

したが、かえって商店街から客足が遠のき、地域の低迷に歯止めがかからない。新たにできた駅前ロータリーや片側 2 車線の市道により、駅からの人の流れが寸断され、商店街は「裏通り」となりつつある。オゾンアベニューの柴田英信副理事長は「車に優しくなったが、歩行者には不便になってしまった」という嘆きが、再開発の現実をよく示し



ている。

大曽根再開発の現実を見に行ったが、最初どこに商店街があるか迷ってしまった。道路の中央分離帯に遮られて、商店街が見渡せなかった。なんとか再開発ビルに囲まれた、しゃれた商店街に行き着いたが、土曜日というのに人通りにはまばらだった。オゾンア

ベニューの
さらに西に
位置するオ
ズモールも
同様であっ
た。ここが誕



生した頃は、三角屋根の店が並ぶ「おとぎの国」のような雰囲気でしたが、いまは閑散とした感じだ。

名古屋は「区画整理のまち」と呼ばれて久しいが、車にだけ優しい再開発、商店街の活気を奪うような大規模再開発に疑問を感じざるをえない。

(2008年1月10日 記)